

◆5分以内の対応が重要！迷ったらアドレナリンを打つ！

◆血管迷走神経反射だとしても大丈夫！

## 第一印象評価

A 気道

☐ 発語の有無  
☐ 異常な呼吸音

B 呼吸

☐ 呼吸様式  
☐ 姿勢

C 循環

☐ 顔色、皮膚色  
☐ 冷汗

D 意識

☐ 意識  
☐ 表情E ☐ 全身観察

## 【全身の症状】

- ☐ ぐったり  
☐ 意識もうろう  
☐ 尿や便を漏らす  
☐ 脈が触れにくいまたは不規則  
☐ 唇や爪が青白い(顔色不良)

## 【呼吸器の症状】

- ☐ のどや胸が締め付けられる  
☐ 声がかすれる  
☐ 犬が吠えるような咳  
☐ 息がしにくい  
☐ 持続する強い咳き込み  
☐ ゼーゼーする呼吸

(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

## 【消化器の症状】

- ☐ 持続する強い(がまんできない)  
 お腹の痛み  
☐ 繰り返し吐き続ける

このうち1つでもあれば  
アナフィラキシーを疑って！

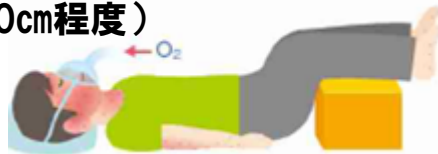
## 【皮膚の症状】

- ☐ かゆみ  
☐ じんま疹  
☐ 血管性浮腫  
☐ 顔面紅潮

皮膚症状は  
アナフィラキシーの  
判断には  
使わない！

## ワクチン接種後に、ぐったりしている小児がいたら

- ☐ 1 「ぐったりしている人がいます。医師と看護師は全員来てください」  
☐ 2 ストレッチャーで救急対応ブースへ移動  
☐ 3 患者を仰臥位にして、下肢挙上(30cm程度)



- ☐ 4 躊躇なく、救急車を要請  
☐ 5 「フェイスマスクで酸素10L(/分)投与してください」  
 「SpO2モニター装着してください」  
 「アドレナリン0.3ml (量は下記の年代に合わせる)吸っておいてください」  
☐ 6 医師はあわてずABCDEの一次評価を

ショックはまず頻脈で気づくこと！

6~15歳110、3~6歳120、1~3歳140、0歳160 (bpm以上)

収縮期血圧測れたら、10歳以上90mmHg未満、1~9歳70~90未満、0歳70未満は低血圧

- ☐ 7 アナフィラキシーを疑ったら(迷う場合にも)

アドレナリンを大腿前外側部に服の上から筋注

アドレナリン 投与量 ▶ 5分毎に筋注を反復OK

|           |            |
|-----------|------------|
| 学童(6~12歳) | 0.3 ml     |
| 幼児(1~5歳)  | 0.15 ml    |
| 乳児(0歳)    | 0.01 ml/kg |

- ☐ 8 救急車の到着まで、一次評価を繰り返しアドレナリン筋注反復を！  
 必要なら心肺蘇生。

注意：無理してやろうとしないこと  
 ×血管確保 ×血圧測定 ×アドレナリンの静注

## メモ

【確知時】

血圧

/ mmHg

(測定不能)

(脈拍触知不能)

SpO2 %

HR

【アドレナリン5分後】

血圧

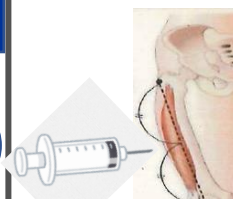
/ mmHg

(測定不能)

(脈拍触知不能)

SpO2 %

HR



筋注は大腿前外側部

【搬送前】

血圧

/ mmHg

(測定不能)

(脈拍触知不能)

SpO2 %

HR